

支部だより

関東支部

昭和三十六年卒 東 建路
令和三年度総会は、コロナ感染防止によ

り中止となりました。

総会に代わり「書面決議書」にて、年間経過、会計監査各報告、令和四年度の運営方針と予算、全役員任期満了により、支部長に吉本忍氏、副支部長に越村進、河田憲一郎の両氏を選任の議案を、会員二十八名全員の賛成を得て承認可決しました。会員に決議報告並びに新支部長よりその他の役員への委嘱を文書にて行ない、「活動の記録」(後述)、「六星だより」を同封して周知しました。

期中の会員活動は全て中止。三役会、会計監査を令和三年十月に日本橋にて実施しました。関東支部は、令和三年六月に創立二十五周年を迎え、これを祝し支部二十五周年の活動記録と過去五年間の写真集として記念のしおり「活動の記録」(A3二折両面カラー版)を作成。同窓会本支部の他関係の皆様にお届けいたしました。



支部運営は令和二年六月から小林支部長の病氣療養により、支部長代行を越村副支部長が務められました。小林支部長は支部

長を六年間務められ、この九月に他界されました。

コロナ禍が早期に終息し会員の元気な笑顔で会えることを期待しています。

関西支部

昭和三十三年卒 松永 潔

令和三年度関西支部の総会開催を十月十六日に予定していましたが、新型コロナウイルスで「緊急事態宣言発令中」と異常な事態になり、会員の皆様方に九月上旬、総会中止のご案内を発送いたしました。

令和三年五月開催の役員会も中止になり、年間活動報告書と令和二年度の収支決算書(領収書コピー付)とを役員の方々に発送して、ご確認していただき、ご確認を返信はがきにてご了承いただきました。新型コロナウイルス感染が安心できる状況になれば、令和四年一月、二月ごろに臨時役員会を開催する予定をしております。久しぶりに皆様方に元気な笑顔でお逢いできる日を楽しみにしております。

東海支部

昭和三十七年卒 猿渡 孝之(旧姓加成)

残念。前回の第十九回目の総会を新型コロナウイルスの影響で中止しました。コロナウイルスの影響を早めに準備して、今回二十回目の総会を早めに準備してきましたが、今回も前回と同様、新型コロナウイルス、オミクロン株の影響を考慮し中止とさせていただきます。

金沢支部

昭和四十八年卒 窪 正之

令和三年度六星同窓会金沢支部の総会開催について、新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し、令和二年度に続き中止とさせていただきます。

翠星トピックス

イオンモール白山と産学連携協定を締結

令和三年四月二十六日に本校において、イオンモール白山と翠星高校による産学連携協定調印式が行われました。当日は、多数の報道関係者が集まる中、小寺和也イオンモール白山ゼネラルマネージャーと鷲澤勝校長により、連携協力に関する覚書が締結されました。この協定は、多面的に連携・協力し、両者の発展と地域社会、産業界等の活性化や振興、人材育成、教育・文化振興、調査研究の分野で相互に協力し、地域の課題に適切に対応し、郷土の持続的な発展に寄与することを目的としています。

連携事業の第一弾は、本校生徒とイオンモール白山に出店業者が共同で商品開発を行うプロジェクト活動を行いました。イオンモール白山は、七月十九日にグラウンドオープンを迎え、「JIMMO(ジモイ)



DORÉ(ドレ)と名付けられた開発商品は、「みつばちかふえ&キッチン」の店頭で販売され、好評を博しています。連携事業の第二弾は、十月九日に、イオンモール白山コートにおいて、翠星マルシェを開催し、本校の生産物の販売及び野菜クイズ体験を行いました。また、会場に設置された大型ビジョンで、本校のPR動画を配信しました。同窓生も多数訪れ、大人から子供まで多くの皆様に本校の教育活動を情報発信することができました。

HACCP無事更新!

食品科学コース 教諭 西前 辰郎
昨年度、六星同窓会の多大なるご支援でHACCPの第三者認証「JFS:B規格」適合証明に合格し、一年間規格に沿った実習品製造を行ってきました。令和三年九月二十五日に更新監査が本校で行われ、無事規格の更新ができました。

事務局だより

〔本部〕
〔会計監査〕
九月二十五日(土) 翠星高校
〔総会〕
十一月二十七日(土) グランドホテル白山

〔支部総会〕
金沢支部総会 中止
東海支部総会 中止
関西支部総会 中止
関東支部総会 中止



発行所
〒924-8544
石川県白山市三浦町500の1
石川県立翠星高等学校内
六星同窓会 印刷部
印刷 能登

会長就任にあたり

六星同窓会 会長 本 昌康



私が同窓会の会長とは驚きだ。松任農業高校に入学したのは五十五年前、こんな日がようとは夢にも思わなかった。
ぶどう農家の長男として育った私は迷いもなく松農に入学した。入学

時、学校の周りは水田で、目の前に国道予定地が長く伸びレンゲ畑となり、まことにのどかであった。四〇人のクラス全員が農家の跡取りで、ぶどう農家が三人もいたのは驚いた。副担任であった大蔵先生は打木

翠星高校 この一年

校長 鷲澤 勝



同窓会員の皆様には、日頃から本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。また、今年度、新会長に本 昌康 様のご就任されたことをお祝い申し上げますとともに、前会長 大蔵 捷直 様には厚く感謝の意を表す次第であります。今年度は、「回復」と「継続」として、コロナ禍で傷んだ「学校」を取り戻す、回復することを念頭に、学校運営に取り組んできました。朝

の検温、体調チェックが日課になった新型コロナウイルス感染症の拡大は、県内でもその警戒レベルが「ステージII(感染拡大注意報)」から「ステージIII(感染拡大警報)」に引き上げられた状態が今年度から始まり、五月の大型連休前の「ステージIII(感染まん延特別警報)」への引き上げ、連休後の「石川緊急事態宣言」発出国の「まん延防止等重点措置」(金沢市への適用など)、立て続けにその対

応を迫られる中で、日々の授業をはじめ各種学校行事をどのように実施していくのか、そもそも実施していいのかの判断の連続でした。
結果的には、昨年のような一斉臨時休業や学校臨時休業はなく、その時々々の感染拡大防止対策をしつかりとり、学校行事を実施することができました。とはいえ、コロナ禍前の日常とは異なり、特に生徒が一堂に集まってなされる活動・行事などは、大きな制約・制限を受けることになりました。部活動についても、活動そのものや練習試合、大会出場などで大きな制限がありました。昨年延期した3年生の修学旅行も予定通りには実施できず、能登方面での代替行事となり、2年生のインターンシップも感染状況悪化により中止、修学旅行も延期となりました。農業クラブの活動においても、発表

大会のYouTube配信による教室での分散参観など、その時々で「できる」ということをしてきてきました。そのような中でも、昨年中止となった文化祭については、ステージ企画と学年・クラス企画の日時・会場を分け、「全力!努力!協力!」翠星の底力を見せつけろ」のテーマのもと、2年ぶりに「翠星高等学校文化祭」として実施することができました。
コロナ禍の現在、感染拡大防止のため「人と人とをできるだけ離す」方向に社会は動き、併せて様々な「モノ」の流れも大きく変わってまいりました。「学校」は生徒が集まって教育活動を行う「場」であり、まさに「人と人ととの距離を縮めていく」場でもあります。昨年度の経験をもとに、「どのようにしたらうまくやっつけていけるのか」を考え、実行

した一年であったように思います。生徒たちも、その時々で変わっていく状況の中で、精一杯頑張る、日本学校農業クラブ全国大会プロジェクト発表会での最優秀賞・文部科学大臣賞連続受賞など、様々な成果を残してくれました。
コロナ禍二年度目の翠星高校の活躍は、頑張り続けてくれた生徒はもとより、指導してくださった先生方、見守り支えてくださった保護者の皆様、そして本校教育活動を様々な形でご支援くださる同窓会の皆様方のおかげだと本当に感謝しております。どのような状況下にあっても、皆様に母校の躍進をお伝えできるよう頑張ってください。引き続き本校教育活動へのご理解、ご支援をお願い申し上げますとともに、同窓会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

源助大根の作出者のご子息、同級生の竹本敏晴君はコメ作り日本一で天皇杯受賞の竹本平一氏のご子息というのにも驚いた。のんびりと入学した私にも松農が農業の名門校であることに背筋が伸びる思いだった。そんな思い出の中にも一つ、私の人生を変えた授業があった。全校生が一同に聞いた、アメリカ旅行をしてきた英語の田村先生の帰国報告だ。
今とは違い一般人が外国に行くことが難しい時代で、私は次々と見せられるアメリカのスライドに見入ってしまった。その講演に聞き入りながら、おつちよこちよいの私は「外国に行きたい!」と思った。卒業後は西洋野菜で一儲けして外国に行くこと担任の先生に話したのは、園芸クラブに入り初めて口にしたレタスの方が家業の葡萄より儲かると思い込んでいたからだ。結局はいろいろあつて農大に進学となるのだが、外国に行きたい夢は持ち続け、アルパイトに明け暮れたお金で欧州へ向

かったのが三年の時であった。
時が経ち五十五歳になった私はひよんなことから「フランスでジャムをつくる」と言い始める。ぶどうの木という店を開業後、飛行機代が捻出できるぐらい安く製菓材料や器具を買えるフランスに毎年行っていたのだが、その際、日本への輸出でお世話になったのが金沢出身でパリ在住の加藤義信氏だった。そのご縁を頼ってジャム工房の立ち上げを企てていたあるとき、加藤さんの出身校が松農であり、彼がフランスに住むきっかけもあの残暑の体育館で聞いた田村先生のアメリカ報告であったと知ったときは鳥肌が立った。
「外国への夢」を持った二人がパリで出会い、南仏プロヴァンスで仕事を共にした七年半が、その後ぶどうの木という会社が東京に進出し業容を拡大する転換点にもなった。一人の教師が二人の生徒の人生に大きな影響を与えたのだ。教育が子供たちの人生に影響を与え、更には社会

を歩み発展へと導いていく。学校教育における「感動」がその源流にあるということに語らずにはおられない。その「恩」を思えば大蔵先生からの同窓会会長への要請にもお応えせねばならないというものだろう。
さて自己紹介のつもりで書かせていただいたので、付け足しのように申し訳ないが就任にあたってのご挨拶を申し上げますねばならない。
同窓会の目的は「賑わいをつくる」「在校生を応援する」この二つだと考える。つまり、懇親の場を盛り上げ、翠星高校の在校生と先生方を応援すること。さらにもう一つ付け加えるのなら一五〇周年をどうのように迎えるのかを先輩方や後輩の皆様と共に考えていきたいと思う。皆様方のお力添えで六星同窓会を盛り上げていきたいと深く念ずる次第だ。
最後になるがこの三月ご卒業された皆様方の六星同窓会へのご入会を心より歓迎申し上げて就任の挨拶とさせていただきます。

第72回日本学校農業クラブ全国大会
令和3年度 兵庫大会 プロジェクト発表会
分野Ⅲ類「ヒューマンサービス最優秀賞」文部科学大臣賞
受賞

**「HACCP導入」応援団！
農業高校生が食品の安全
安心を考えろ**

石川県立翠星高等学校総合グリーン科学科
食品科学コース食品科学研究会



翠星 HACCP
スクールツアー
QRコード



第72回日本学校農業クラブ全国大会
令和3年度 兵庫大会

HACCP (ハザップ)とは
食品の製造工程で食中毒や異物混入などの健康被害が起る可能性のある部分を特定し、継続的に監視して製品の安全性を確保する衛生管理手法のこと。

三度目の日本一

食品科学研究会 顧問・教諭 安川 三和
(平成十一年卒)



食品科学研究会は食品科学コースの部活動で、模擬株式会社運営による起業家活動・農業高校生による6次産業化支援を行っている。それらの成果を農業クラブで発表し、毎年全国大会に挑戦している。今年度、「日本学校農業クラブ全国大会」(兵庫

大会) プロジェクト発表会分野Ⅲ類」にて最優秀賞及び文部科学大臣賞を受賞し、平成二十九年年度・令和元年度につき三度目の日本一に輝いた。

日本一を目指して九年。毎年生徒とともに全力かつ最大限の努力をする。しかし、今年度はコロナ禍のため外部訪問禁止等の措置が行われ、研究会活動が大幅に制限された。許された時間で「全国レベルの活動と競技トレーニング」ができるのか？指導者として答えが見えず「全国を諦める」という言葉が何度も心をよぎった。そんな中、生徒と話し合いを重ね、限られた時間で最善の活動をした。生徒は精神的にも肉体的にも極限状態が続いたと思う。結果として、全国の舞台で過去最高の発表をし、三度目の日本一を勝ち取った。厳しい状況下でも努力を諦めなかつた部員は私の誇りであり、不可能を可能にするのは「情熱」だと改めて感じた。

今年度の研究テーマは令和三年六月に義務化された国際的な食品衛生管理手法「HACCP」の普及である。昨年、コースと協力し教育機関初のHACCP第三者認証「JFSB規格」適合証明に合格した経験から、自分たちのHACCPの取組みをモデル化し生産者や就労施設に「HACCPを含めた6次産業支援」を実施した。8月にネット配信したHACCP how to動画「翠星HACCPスクールツアー」は、食品企業の社員教育や石川中央保健所の講習会で教材として採用されたことに加え、複数の企業からHACCPを学んだ卒業生を採用したいと求人依頼があり、食品産業の発展に寄与する社会的意義の高い活動となった。また、テレビ局の密着取材も受け、大きく注目されたのである。

生徒には、自分たちの活動に誇りを持って食品業界で活躍することを願う。そして、今後も翠星高校が地域から求められる存在でありつつけるため頑張りたい。

六星・翠星は希望の星

昭和四十五年卒 農業科 竹本 敏晴
六星同窓会副会長

◆大蔵先生 お疲れさま
このスペースは、本来大蔵前会長の御退任挨拶の欄で、小生如きがチャベチャベと出しゃばるのは、恐れ多い極みです。しかし先生がわざわざ、九谷の里の当農場まで足を運ばれ、丁寧に「お前書いてくれんが」の御言葉があれば、例え火の中・水の中行くが教え子の進む道。

まずは、先生長い間お疲れさまでした。そして有難うございました。
先生が大学を卒業後、母校に赴任された年、小生らも入学し、クラスの副担任になられました。「アレカラ五〇年!!」長い間教えを頂いています。

◆副会長を拝命
ところで、二・三年前、先生からお電話があり、例によって丁寧に「お前副会長をやれ」でした。この度新しく選任された本会長の下で、協力を務めることになりました。



本会長とは、母校同クラスで、三年の時に、氏が生徒会長で、小生が農業クラブ会長(現在はよく判りませんが、当時は全校生の選挙で選任)を務めた腐れ縁で、今でも家族ぐるみのお付き合いをさせてもらっています。

**環境科学コース環境設計分野の近年の活躍
生徒達の琴線とふれあう日々**

環境科学コース 環境設計分野 教諭 市村 実



「ここ数年は、食品科学コースの活躍ばかりが目立つが、他のコース・分野は何をしているの？」との声が漏れ伝わる昨今でした。

本校にて初めての教壇に立ち彼此二十九年。「翠星LOVE」を合言葉に、時節時節一杯、生徒に寄り添い、時に背中を押した。進むべき方向を導いたりして来たつもりでしたが、斯様な指摘には明確な返答を見つけれずにはいられず。

しかしながら、ここ数年力を入れていた指導が「測量士補国家試験の補習」でした。本格的に取り組み始めたのは四年前。その年の受験希望者は三名で、結果は三名共にあと二、二問のところで不合格でした。ようやく結果が出たのは昨年でした。土日を中心に二〇〇時間超の補習を行った結果、五名中二名が合格し、翠星高校初の測量士補が誕生しました。そして今年度は二五〇時間を超える補習時間を経て、三名見事に合格しました。他の工業高校でも毎年受験しているとの話ですが、本年度は合格数で金沢市立工業と並び、県内一位になりました。喜ばしいことですが、長期間の補習について来てくれた生徒達の努力の賜物であると実感しています。

また、例年出場している各種測量大会でも、顕著な成績を収めることができました。「農業クラブ全国大会平板測量競技会」では、三年生が優秀賞に輝きました。この大会は、長年に渡り自身が指導に携わってきた競技です。若い頃は結果に気を取られてばかりでなかなか勝てない時期もありました。しかし、競技に関わった生徒達が変化し、成長



し、自立してゆく姿に触れているうちに、測量の練習期間が掛け替えのない楽しい時間に変化しました。一方、毎年県内の工業高校と競い合う「石川県高等学校測量技術コンテスト」では、二年生が一位二位を独占しました。寒冷前線通過直中での水準測量競技でしたが、降りしきる豪雨の中、学んだ測量技術を発揮するために他のどのチームよりも勇敢でした。そのような生徒達の真剣に取り組む姿勢が、逆に私自身の背中を押していたことに気付かせて貰えた一年でした。

私は、測量の知識・技術を教えている時が一番楽しいです。それは若い頃からそうでした。ただ、その対象が松農・翠星の生徒達だからこそ特別なのかも知れません。実は、たくましくも自我を形成し、人格を完成させてゆく生徒との出会いは、私にとっても掛け替えのない三年間だったのです。大蔵同窓会会長が松農校長時代に、「翠星に触れる時」というお話をされました。今から二十年以上も前のことです。私も五十二歳になりました。やっと、その内容を理解できるくらい経験を重ねることができたのかも知れません。

新たな人生への挑戦

平成六年卒 造園学科 山本 佳裕



六星同窓会員の皆様。初めて寄稿いたしました。私は、昨年になりましたが、令和三年二月二十一日に行わ

れました白山市議会議員選挙に立候補して初めて当選し、白山市議会議員として活動しています。

それまではといても、現在も兼職ではあるのですが、家業の(有)グリーンハウス・ユウで造園・園芸の販売、工事を行っています。しかし、代表は兼務できず当校の卒業生でもある社員に社長をお願いしている状況です。

私は、白山市で生まれ白山市で高校まで育てていただき、当時の先生に後押ししていただき、両親のおかげでもありますが、東京農業大学農学部造園学科まで進学することができました。当時、実業高校に通う時点で卒業後は就職することを前提とし

ていまして、農業高校特有の事業で農業クラブ会長や全国大会など、貴重な体験をさせていただきました。そういった勉強だけでなく人間力を高める教育が今日の私の基本になっていると思います。

このたび市会議員として挑戦をしようと思った理由には、農業を通じて感じた地域の発展や成長には政治が欠かせないという現実。僕らの世代の大部分はそういった政治や選挙に関する教育はもちろん、話をすることすら良くないことのような印象を持っています。地域活動や仕事をしていてそのまま流されてはいけないということを感じました。

これまでの地域が良いのはこれまで守り育てていただいた人たちのおかげであり、これから自分たちの地域が住みよいまちであることの責任は自分たちにあります。六星の由来に「農業は国の本なり」とあり、教育の基本を星になぞられたとあります。その理念を翠星高校卒業生の一人として心に刻みこれからの白山市の発展に挑戦していきます。

食品業界の片隅で

平成三年卒 食品製造科 中村 浩三

六星同窓会の皆様には、益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。

私が松任農業高校食品製造科を卒業したのは平成三年です。早いもので三十年が経ちました。二年生の時に食肉加工の実習があり大変興味を持ち、卒業後は小松市にあった食肉会社に就職しました。その後は、富山県の食品工場、愛知県小牧市の採卵養鶏・養豚場の直売加工工場、三重県津市の養豚・食肉加工の会社で、ハム・ソーセージの加工を中心に勤めてきました。七



食が生み出すシーンは様々ですが、「美味い人は人を笑顔にする」を信念に全国の皆様笑顔になる瞬間の一助になるべく、食品業界の片隅で励んでまいります。最後になりましたが、母校並びに六星同窓会の益々の発展を祈念致します。